

育成

モノづくり人材
Vol. 94

愛知県立半田工業高校



山本校長

愛知県立半田工業高校は、県西部の知多半島で唯一の工業高校。周辺にある航空機や鉄鋼関連の製造拠点に就職する生徒もおり、「就職する」（野田昌彦教頭）のが強みだ。地域での存在感を高めるため3年生の2月に行う課題研究成果発表会を企業

職先が多業種にわたる」（山本忠幸校長）。各クラスで4、5グループに分かれ、それまで教わった知識や技術を基にモノづく

課題研究、自ら考えて動く

関係者や中学生、保護者などにも公開するなど地域密着を掲げる。科の教員に溶接を教わるなど、学科を超えた授業で力を入れているのは3年次に週3回設けている課題研究。これまで河川浄化口マニフェストやスマートフォン用アプリケーション、熊本城の断面模型などを対象にした研究。「柔軟性に富む創造性豊かなモノづくりスペシャリストが必要

りなどに取り組む。土木科の生徒が電子機械など地域密着を掲げる。科の教員に溶接を教わるなど、学科を超えた授業で力を入れているのは3年次に週3回設けている課題研究。「柔軟性に富む創造性豊かなモノづくりスペシャリストが必要

【DATA】 ▷校長＝山本忠幸
氏▷所在地＝愛知県半田市▷学科構成＝〈全日制〉電子機械科、電気科、土木科、建築科▷生徒数＝711人▷主要設備＝3Dプリンター、マシニングセンター(MC)、トータルステーション▷主な進路＝トヨタ自動車、SUBARU、大同特殊鋼、日本車両、LIXIL、名城大学、中部大学、岐阜工業高等専門学校など

時間が減っている。理科や図工の時間が減っている小学生にモノづくりへの関心を持つてもらうのが目的で、暗



生徒が小学生を教えるモノづくり体験教室
「サマーアタック」

日々、授業前後に実技指導の時間を設け、旋盤や電気工事、測量などの技能向上を図っている。部活動と時間が重なるため、運動部所属で文武両道を目指す生徒にとっては力の入れ方が難しい時期になる。生徒自身でバランスを取ることで「自ら考えて動く人を育てる」（服部光博教頭）方針。

日々の製作に取り組んで点滅する発光ダイオード(LED)できた。電動車いすは西尾信用金庫(愛知県D)ライトなどを製作している。生徒が教師デア製品コンテストで最優秀賞を得た。二ヶーション力の向上

ながつておらず、ゴミ拾いさまざまな業種に即戦力の人材供給を目指している。生徒が教師の要請などを受ける一方、建築科の生徒が校の競技大会などを通じ、資格取得や工業高齢構成もあり、ベテラン教員が退職する前に引き継ぎが必要だ。

一方、建築科の生徒が校の競技大会などを通じ、資格取得や工業高齢構成もあり、ベテラン教員が退職する前に引き継ぎが必要だ。

制作したペーパークラフトを割いている。試験の結果、主催の伊藤一郎(名古屋・市川哲宣)は、1カ月前からほぼ毎

年開催される全国的競技大会に向けた練習が進んでいた。

（名古屋・市川哲宣）

（金曜日に掲載）